



モノづくりを通じて 日本をもっと元気になりたい

トヨタ自動車社長

佐藤 恒治

さとう こうじ

モ

ノづくりは長年にわたり、日本の基幹産業として経済社会の発展に貢献してきた。付加価値の高いモノ

ノをつくり、輸出して、外貨を稼ぐことで、資源を持たない日本の経済活動を支えながら、地域社会の発展や雇用・所得向上の面においても、大きな役割を果たしてきたと思う。

一方で、近年、モノづくりを取り巻く環境は厳しさを増している。地政学リスクの高まり、テクノロジーの急速な進化、生産年齢人口の減少や若者の製造業離れなど、多くの課題に直面している。国際競争も激化している。自動車産業でも、中国をはじめ、海外の競争相手は進化のスピードが速い。こうした中で、日本のモノづくりの真価が問われていると思う。

長年、モノづくりに携わってきた中で、もったいいモノを追求して、挑戦し続ける現場のエネルギーこそが日本の強みであるということを感じてきた。モノづくりの現場には、品質と生産性にこだわって磨いてきた高度な技能と、優れた要素技術がある。そして、世の中をもっと良くしようという思いで取り組んでいるリーダーが

たくさんいる。この力が一つになれば、モノづくりは、新しい価値をもっと生み出すことができる。そして、日本の成長に貢献できると考えている。この思いを軸に、経団連の活動を通じて、個々の優れた技術や取り組みをつなぐ役割を果たしたい。

未来に向けて大切なことは、サプライチェーン全体でモノづくりの基盤をしっかり整えたうえで、技術を磨き、イノベーションを追求し続けることだと考えている。鍵を握るのは、産業を超えた共創だ。委員長を拝命したモビリティ委員会では、移動の自由と楽しさをさらに広げていけるよう、モビリティの価値創造に向けた産業連携を深めていく。中長期の視点に立って、製造業を軸に、産業全体の競争力強化に資する取り組みにもつながっていききたい。

アイデアを形にして、今ここにない、新しいモノを生み出す。技術の力で、暮らしを豊かにする。モノづくりとは、「未来をつくる」創造的な仕事であると思う。モノづくりを通じて、多くの人々の幸せに貢献し、日本がもっと元気になるお役に立てるよう、しっかりと取り組んでいきたい。